

年表 (※は「この頃」の意 下線部は邪馬台国にまつわる記事)

西暦	日本	中国・朝鮮半島	インド
BC 2400	(縄文時代中期) 黄帝一門、九州に渡来して海神を従え、那珂川流域に那珂つ国建国 2300 那珂つ国王・海神王を兼ね、神国づくり・畑作に入れ込む 2000 ※三内丸山の大集落、衰退 (縄文時代後期) 1100 ※八ヶ岳近辺の縄文集落、衰退 1050 (縄文時代晩期) 660 ※「記紀」の神武元年	※炎帝と黄帝、阪泉の野で決戦 ※黄帝、神国中国を興し、神国づくり ※五代天帝の舜、禹に帝位を譲る ※禹の兄・啓、神代と決別し夏王朝樹立 ※太伯、荊蛮の地に呉建国 ※周武王、殷を滅ぼし、周王朝樹立 紂王の叔父・箕子を朝鮮に策封 ※周公、二都による封建体制を布く ※韓祖の韓武子、魏祖の畢万、共に獻帝(前 676~651)に仕える	※インダス文明、栄える インド・アールリア人、パンジャブ地方に侵入 ※ゾロアスター、天啓を受ける ※ペルシャ、インダス地方併吞
BC 494	480 473 ※呉太伯ら子孫、九州西北に渡来し、天之国建国 那珂つ国に取り入り、水田稲作・集落づくり指導 403 ※那珂つ国、天之国軍を従え、東海・北陸南部まで支配 334 327 ※越勢、襲来。那珂つ国を出雲に追放し、オロチ敵之国王朝樹立 敵之国本家の宗像家、一門を各地に策封 256 吉野ヶ里→後世の伊都国 奈良盆地→三輪氏、 230 摂津→小千氏 北陸→越オロチ(後世の越智氏) 221 北九州・瀬戸内沿岸・山陰・畿内・北陸・東海に水田稲作拡大 (弥生時代の幕開け) ※韓勢、一門を半島に策封(後世の三韓)後、唐津湾岸に来襲 206 ※天之国、韓勢(日高国)と組んで敵之国王朝を倒し、倭国王朝樹立 202 ※倭国、唐津や福岡平野に都し、周公の政再現を図る。 東進して近畿・東海まで支配し、水田稲作にまい進 ※宗像家、遠賀川流域に引きこもり、天之国に従属	呉王夫差(太伯ら子孫)、越王勾践(夏王朝末裔)を会稽に降す 孔子、没す 夫差、勾践に敗れて自決。呉、滅亡 ※晋から分裂の韓・魏・趙、諸侯に列す ※楚、越を滅ぼす 秦、周室を滅ぼす 韓を滅ぼす。韓勢、朝鮮半島に流浪 魏・斉・燕を滅ぼす 秦始皇帝、中国統一 泰山で封禅 徐福を東海上の神仙三島に送る 秦、滅亡。秦の流民、朝鮮に流れる 劉邦(高祖)、漢朝を興し、皇帝に昇る	※仏陀、没す ※マカダ国、ガンジス川流域統一 アレキサンダー王、侵入 ※マウリア王朝、興る ※アショーカ王、即位 ※アンドラ王朝、成立
BC 194	※倭国に流れ来た漢王族、国東半島に豊国を賜る 110 ※敵分家の葦原家、中つ国・豊国と盟約し、豊葦原中つ国王朝樹立 福岡平野の早良・那珂近辺に都し、百余国を統治 108 葦原家、宗像家を宗家に祭り上げ、自ら敵之国本家と語る ※吉野ヶ里の敵分家、豊葦原中つ国を出雲に追い払い、伊都国王朝樹立。糸島平野怡土に都し、百余国を封建統治 91 漢に朝貢…「地理志」記載の倭人 神国づくり・儒教に沿った政にまい進	※燕の衛満、箕子朝鮮を乗っ取る ※朝鮮王準、南鮮に逃れ、韓氏と語る 斉・秦の流民を馬韓や辰韓に入植 ※漢武帝、泰山で封禅 北ベトナム支配 衛氏朝鮮を倒し、楽浪郡設置 ※『漢書』地理志、「倭人、分かれて百余国。歳時を持って来り」 司馬遷、『史記』を書き上げる	※マウリア王朝、滅亡
AD 8	25 ※天之国女帝の天常立、豊葦原中つ国の国常立と組み、伊都国打倒 怡土に倭奴国王朝樹立。ついで初代女系天神に即位 56 日高の高皇産霊、十握剣を賜り王朝守護 伊都国、古巢の吉野ヶ里に舞い戻る 57 国常立、後漢に朝貢し、金印「漢委奴国王」・方格規矩鏡等を賜る	王莽、漢を乗っ取り、「新」建国 光武帝、漢朝を再興 楽浪郡設置、北ベトナム支配 泰山で封禅 郊祭して倭の使者に謁見 ※仏教、中国に伝来	クジャン朝、成立
AD 107	150 倭奴国王(倭面土)、後漢に朝貢し、生口 160 人を献上 ※摂津三嶋嶋族の面足、六代倭王に立ち、三島(高槻市)に副都す 三嶋流神国づくりに入れ込む 166 170 ※伊弉諾、七代女系天神天の尾羽張から七代倭王拝命 黄帝流神国・天竺流常世づくりに邁進。淡路島・宮津に副都す ※豊葦原中つ国の大穴持(マガダ国王、山王、大国主)、伊弉諾に養子入りし、熊野櫛御毛野、豊受(天照)皇太神、御饌津神と語る 184 ※皇太神、唐古に副都し、東方統治に専念 ※皇太神、三輪オロチら畿内勢と組み、反乱 伊弉諾の妃伊弉冉を攝津で拉致し、出雲半島黄泉国に幽閉 ※伊弉諾、播磨・攝津の磐石(伊和邑)を急襲 ※皇太神、出雲の月夜見国(黄泉国)で天下分け目の決戦で大勝 瑞穂の敵之国王朝(邪馬台国)を建て、天叢雲、天照大神と語る 大倭唐古に天宮して水天神に昇り、常世づくりにまい進 嫡子の天鹿見山も、出雲国杵築に天宮し、火天神と語る ※伊弉諾・向津姫ら、日向に敗走。あわき原で禊払い(降伏の儀式) 伊弉諾嫡子の子(蛭子)、人質代わりに三輪氏に引き取られる 191 (高天原/邪馬台国の時代) 192 ※向津姫、日神の天照大御神に昇り、高千穂宮を天宮と定める 天宮に坐して、徳と真心による政を実践 真経津鏡(八咫鏡)を天璽と定め、倭奴国王朝再現を模索 ※素戔嗚、奥出雲で八俣大蛇(天照大神・天鹿見山の親子)を退治	※蔡倫、紙発明 ※バルティア国安世高、大月氏国シルカセン、中国に仏教を伝える ローマ皇帝の使者、来訪 ※南朝鮮では馬韓、弁韓、辰韓が隆盛 ※マガダ王、天台山から出雲へ飛来 黄布の乱 ※日隈・天(敵)の一派、新羅を篡奪 ※素戔嗚、新羅に出奔 曹操(曹丕の父)、黄布青州軍を破り、30万の兵を得る。漢大將軍に就く	※アンドラ王朝、最盛期 ※クジャン朝カニシカ王、即位 ※マガダ国王、天台山へ

西 暦	日 本	中国・朝鮮半島	インド
204 208	<p>※大己貴、葦原中つ国を再建し、安芸・播磨も支配 新羅から襲来した天日槍(五十猛)の騎馬軍団を宍粟邑で撃破 越(高志)オロチと盟約し、西と北から邪馬台国を執拗に攻撃 ※妻の日神と組んだ天照大神、高皇産霊と語り、高千穂宮入り ※天孫饒速日(初代垂仁)、大倭に天降ったが、ほどなく急逝</p>	公孫氏、楽浪郡南方の帯方郡を開拓 呉、赤壁の戦いに大勝	
220 221 ～ ～ 230 ～ 238 240 245 247	<p>※高皇産霊、経津主らを出雲に遣り、葦原中つ国平定 大己貴、天神の御子に国譲り ※皇孫(天孫)火瓊瓊杵、薩摩の笠沙(加世田市)に都し、日前国樹立 ※天照大神(高皇産霊)、天火明・大己貴らを連れ、大倭に帰国 ※天火明(二代垂仁)、大倭に日高見国建国 関東～陸奥制圧の準備にかかる ※天照大神、唐古で急逝→纏向石塚古墳に埋葬 ※日神、素戔嗚と共に大倭に遷座し、纏向一之宮入り 厳之国王朝を天(厳)王朝(倭)に衣替えし、倭女王ヒミコに立つ ※ヒミコ、祝いの八咫鏡(三角縁神獸鏡)を豪族に配布 仏塔になぞらえた常世(纏向勝山古墳など)づくりに着手 畿内・東海の太氏と大倭家、銅鐸を一斉放棄 ※火瓊瓊杵、日向の西都に遷都。吾田の妻国(投馬国)を呼び寄せる ※火瓊瓊杵の兄、火照(海幸彦)・火折・火スセリ、誕生 天火明の嫡子、誉津別(火火出見)、誕生 ※ヒミコ、天火明・経津主・武甕槌を東国に派遣。常陸・陸奥を支配 ※天火明、東国に日高見国を移し、千葉県市原市に東都を開く ※火瓊瓊杵の兄・火折、大倭に降臨し、誉津別と称す 天火明の兄・誉津別、日向に天降り、火火出見(山幸彦)と語る ※火火出見(山幸彦)、日前太子の座を巡り海幸彦と争う 十二月、ヒミコの使節、明帝に見える ※呉の使節、呉鏡を持参し、日前に到る 赤鳥元年(238年)銘の呉鏡伝来(山梨県で出土) 赤鳥5年(242年)・7年(244年)銘の呉鏡伝来(大阪府で出土) 魏帝の勅書・印綬・鏡(方格規矩鏡)百枚、ヒミコの手元に届く ※火瓊瓊杵、ヒミコと絶縁。日前軍、北進して邪馬台国軍と交戦 魏帝、帯方郡を通じて倭の大夫に黄幢授与 ※天火明、ヒミコに叛く ※ヒミコ、火瓊瓊杵と和睦し、天火明・尾張勢を追放 ※天火明、常陸に遁走し、相変わらず日高見国と称す ※海幸彦(火明饒速日)、大倭に降臨し、饒速日・火明の家督相続 ※ヒミコ、倭姫と伊勢遷座。翌年、八十歳で逝く→箸墓円形壇に眠る</p>	<p>曹丕、後漢献帝を廃し、魏王朝樹立 劉備、(蜀)漢王朝興す 孫権、呉建国 孫権、皇帝と称し、漢と結盟。亶洲探索 遼東に兵一万を送るが、裏切られる 諸葛孔明、五丈原にて陣没 明帝、冬至の日に郊祭。 正月、司馬宣王に公孫氏征伐を下命 帯方郡の太守、倭国に使者を派遣</p>	<p>※アンドラ王朝分裂 ※ペルシヤにササン朝興り、バルテア王国、滅亡 ※アンドラ王朝、滅亡 インド、分裂</p>
250 264 266	<p>※火明饒速日(三代垂仁)、日本朝を開き倭王に立つが、國中乱れる ヒミコの宗女トヨ(豊鍬入姫)を二代女王に立て、國中鎮まる 魏の使節帰国後、円形壇を周濠つ円墳に改築→ヒミコを埋葬 祝いの鉄剣を豪族に配布 十握剣を神璽として女王守護し、三嶋流神国づくりに邁進 ※火瓊瓊杵逝去。養子で跡継ぎの火火出見、家督相続 ※火火出見、高千穂宮(都市/霧島市)で日神の政再現にまい進 女王トヨ、晋に朝貢 ※火明饒速日、ヒミコの墓を周濠つき帆立貝形前方後円墳に改築 →泰山に見立てて郊祭し、天神天照国照彦天火明饒速日と語る ※景行、倭王に就任。女王トヨ、逝去→倭迹迹日百襲姫、三代女王に立つが、ほどなく逝去→氣息足姫(神功)、四代女王に立つ ※景行、西南征夷將軍の彦狭嶋と共に熊襲征伐に赴くが、惨敗</p>	<p>司馬炎が魏帝を廃し、晋を建国 晋武帝、十一月に倭国から貢物を受ける 翌月冬至の日に郊祭し、倭国使節に謁見</p>	
280 285 290 年代末 301 (辛酉年) 304 ～	<p>※景行、足掛け六年も抑留される。280年代前半、日向から帰国 ※火火出見、逝去 →磐余彦、火火出見の名と家督を継ぎ、高千穂宮(宮崎市)に都す 呉の鏡作り工を招き、葬送用八咫鏡(三角縁神獸鏡)を量産 ※仲哀、橿日に副都し、神功・日本武・吉備津彦らと熊襲征伐に赴く 磐余彦、日本朝を討つべく東征。北九州を席卷 神功・日本武・吉備津彦・竹内宿禰を捕らえ、味方に引き込む ※倭(迹迹)姫、五代女王に立つ ※磐余彦、神功に新羅征伐下命。日本武に吉備・出雲征伐下命 吉備・出雲・播磨を攻略。戦死者の古墳に三角縁神獸鏡を埋納 ※日本軍総大将の長スネ彦、降伏。日本朝瓦解 長スネ彦の兄、アビ彦、陸奥に走り、日本將軍と語る ※磐余彦、和国流葬送儀礼で以て敵武將を黒塚古墳に埋葬 橿原宮造営に着手。日本武尊に北伐下命 (大和朝廷の時代) 磐余彦、神代と決別して大和朝廷を開き、初代天皇(神武)に即位 饒速日の兄・可美真手、物部氏と語り、海幸彦との誓約履行 ※饒速日、逝去。周濠つき宝来(蓬萊)山古墳(奈良市)に眠る 田道間守、不老不死を叶えるミカンの木を西域から持ち帰る 磐余彦、日神と高皇産霊の斎場(桜井茶臼山古墳)を鳥見山中に造営 鳥見山祭場で郊祭して皇天を天に配し、皇祖天神(皇宗)に奉る ※磐余彦、逝去→磐余地方の日向型メスリ山古墳に眠る</p>	<p>晋、呉を滅ぼし中国を統一 以後、各地に古墳が造られ、磐余彦やヒミコの八咫鏡(共に三角縁神獸鏡)・魏帝鏡(方格規矩鏡)・鉄剣などが埋納される</p>	<p>田道間守、不老不死の仙薬を求めて西域に向かう</p>

